
キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査
調査結果のご報告

2010年7月

Benesse[®] 教育研究開発センター

■ 調査概要 ■

- 調査目的 大学生の就業力育成が重要な課題となる中、全国の大学のキャリア教育・就職支援活動の現状と課題を把握する。
- 調査方法 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期 平成 22 年 4 月
- 調査対象 全国の国公私立 4 年制大学 キャリアセンター・就職部門長 457 名
* 大学院大学、放送大学、通信制のみの大学、夜間主・二部主の大学を除く
(配布数 724 通、有効回答数 457 通、有効回答率 63.1%)
- 調査内容
 - ・キャリア教育の実施状況
 - ・就職支援の実施状況
年間事業／企業等への情報提供・採用依頼／進路・就職相談
 - ・学生の問題点・課題
 - ・キャリア教育・就職支援の体制
 - ・キャリア教育・就職支援の課題
- 回答校の属性

◇ 設置者別

(校)

国立	公立	私立	計
50	45	362	457

◇ 大学規模別 アンケート回答の学生数をもとに分類

(校)

999 人以下	1,000～1,999 人	2,000～2,999 人	3,000～4,999 人	5,000～9,999 人	10,000 人以上	不明・無回答	計
126	101	52	59	70	33	16	457

■ 目 次 ■

● 調査概要	2
● 結果概要	3
1. キャリア教育の現状	4
2. 就職支援の現状	6
3. 進路・就職相談について	10
4. キャリアセンターからみた学生の課題	12
5. キャリア教育・就職支援体制	14
● 調査票と集計結果	17

結果概要

次ページより、本調査の主な結果を報告する。

本調査においては、「キャリア教育」「就職支援」を次のように定義している。

- キャリア教育・・・主に低学年を対象とした、就業の基礎となる「基本的な職業観」やコミュニケーション力、課題解決力などの「汎用的能力」を育成するための教育
 - 就職支援・・・就職を成功させるための各種スキル習得や情報提供・相談等の支援
-

1. キャリア教育の現状

単位取得を伴わないキャリア教育はキャリアセンター主体、単位取得を伴うものについては教学側主体での実施率が高い。キャリア教育の課題は学部の教育との連携や学部教員の理解。

(1) キャリア教育の実施状況

平成21年度のキャリア教育の取り組みをみると、キャリアセンター主体で「実施している」「予定または検討中」の回答が多い項目は「進路冊子の配布」81.0%、「職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）」78.5%である。一方、教学側主体では「インターンシップ科目（単位あり）」60.6%、「職業観育成のためのガイダンス科目（単

位あり）」56.9%、「汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）」54.3%の順に高く、「単位あり」の科目については教学側主体の実施が多く、それ以外はキャリアセンター主体が多い。

設置者別に実施率についてみると、キャリアセンター主体の「汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）」で、私立の53.9%に対し、公立・国立がそれぞれ33.3%、26.0%と、20ポイント

Q. キャリア教育として、平成21年度にどのような取り組みを実施しましたか。または、今後実施する予定ですか。

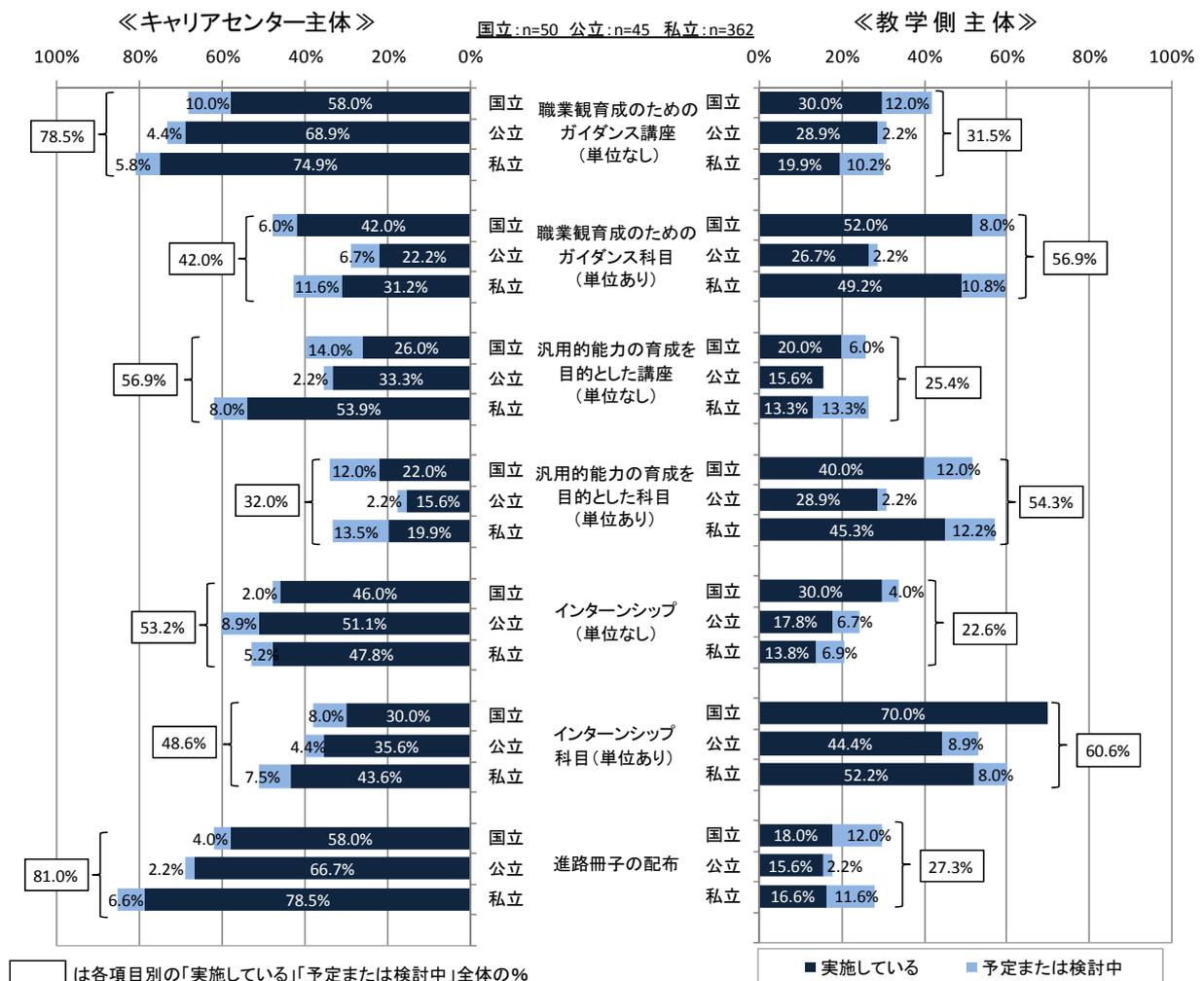


図1-1 キャリア教育の実施状況(設置者別)

以上の違いがみられている（図1-1）。

キャリア教育の多くは3年生での実施・検討率が高いが、「職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）」は1年生のうちから、キャリアセンター、教学側主体の双方で5~6割程度が実施・検討している。

キャリア教育の外部協力者については、キャリアセンター主体の場合において、「職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）」「汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）」など

で、就職支援民間事業者と連携、または連携を検討しているところが多いようだ（表1-1）。

(2) キャリア教育の課題

キャリア教育の問題点・課題をみると、「キャリア教育と学部の教育をどう結びつけるのが難しい」という回答が56.4%（「とても思う」「やや思う」の合計）と最も高く、次に「キャリア教育の重要性について学部教員の理解が図りにくい」との回答が55.7%と高かった（図1-2）。

表1-1 キャリア教育の対象学年および外部協力者

主体	キャリア教育の取り組み	「実施している」及び「予定または検討中」 ＜件数＞	対象学年				外部協力者			
			1年	2年	3年	4年	OB・OG	採用企業	就職支援 民間事業者	協力なし
キャリアセンター	職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）	359	54.3	61.8	73.3	37.3	41.2	34.5	72.7	9.7
	職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）	192	59.4	66.1	59.9	24.0	35.9	31.3	53.1	11.5
	汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）	260	51.2	58.1	75.0	31.5	10.4	10.4	70.4	8.5
	汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）	146	52.1	59.6	55.5	22.6	15.1	12.3	40.4	13.0
	インターンシップ（単位なし）	243	30.0	58.8	86.8	26.7	5.3	52.3	28.0	13.6
	インターンシップ科目（単位あり）	222	15.3	54.1	84.2	20.3	9.0	50.0	29.3	12.2
	進路冊子の配布	370	32.4	24.1	84.1	20.0	7.6	3.8	36.5	32.2
教学側	職業観育成のためのガイダンス講座（単位なし）	144	34.7	46.5	61.1	30.6	29.9	22.9	32.6	11.1
	職業観育成のためのガイダンス科目（単位あり）	260	61.9	64.6	48.1	21.2	33.1	26.2	36.9	16.5
	汎用的能力の育成を目的とした講座（単位なし）	116	45.7	50.0	56.9	31.9	14.7	12.9	31.0	17.2
	汎用的能力の育成を目的とした科目（単位あり）	248	62.1	62.5	51.2	27.4	14.9	11.7	24.6	32.3
	インターンシップ（単位なし）	103	25.2	49.5	70.9	34.0	8.7	42.7	19.4	11.7
	インターンシップ科目（単位あり）	277	16.2	49.5	84.8	24.5	12.6	49.5	20.9	15.5
	進路冊子の配布	125	28.8	22.4	43.2	17.6	4.0	2.4	15.2	28.8

各キャリア教育の取り組みにつき、「実施している」「予定または検討中」と回答した大学のみ対象。複数回答。網かけは各取り組み別に最も値の高いものを示す。

Q. キャリア教育における問題点・課題は何でしょうか。

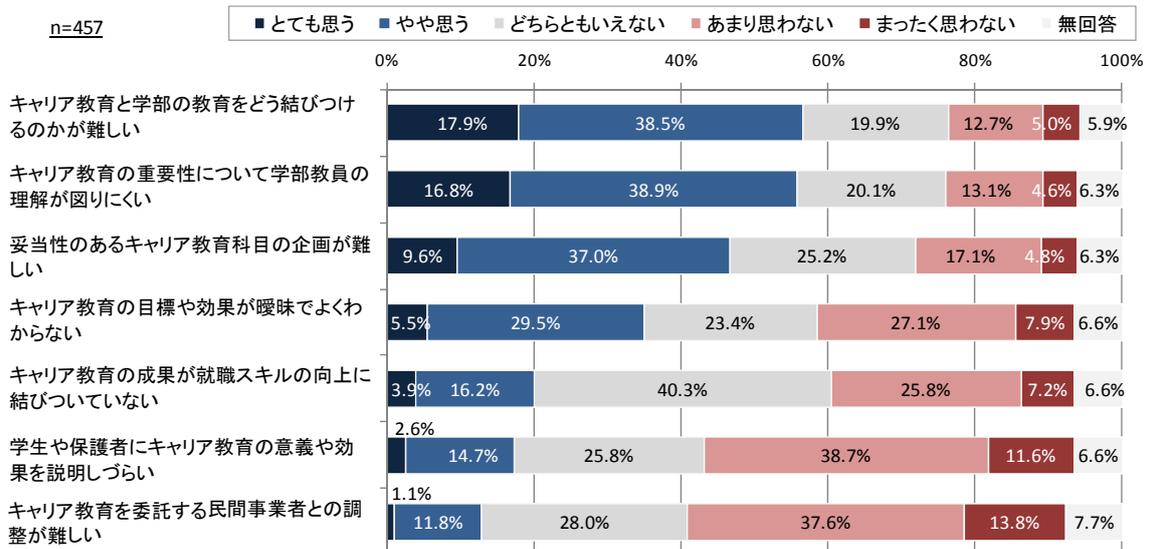


図1-2 キャリア教育の課題(全体)

2. 就職支援の現状

就活ガイダンス、面接対策講座、エントリーシート指導などは8割以上の大学で実施。私立大学では適性検査や一般常識の対策講座の実施率も8割と、国公立に比べて高い。

(1) 就職支援の実施状況

設置者別に平成21年度に実施した就職支援の状況を見ると、「就活ガイダンス」「就職活動手引きの配布」「エントリーシート指導」「面接対策講座」「大学での企業説明会」などは国公立問わず、8割以上の大学で行われている。

国公立の違いが表れている項目は、「各種適性検査対策」（私立 82.6% > 公立 57.8% > 国立 52.0%）、「一般常識対策」（私立 78.2% > 公立 48.9% > 国立 38.0%）、「資格対策講座の設置」（私立 71.3% > 公立 37.8% > 国立 18.0%）（図2-1）。

Q. 貴大学で実施している就職支援を目的とした年間事業について伺います。平成21年度に実施した支援項目をすべてチェックしてください。

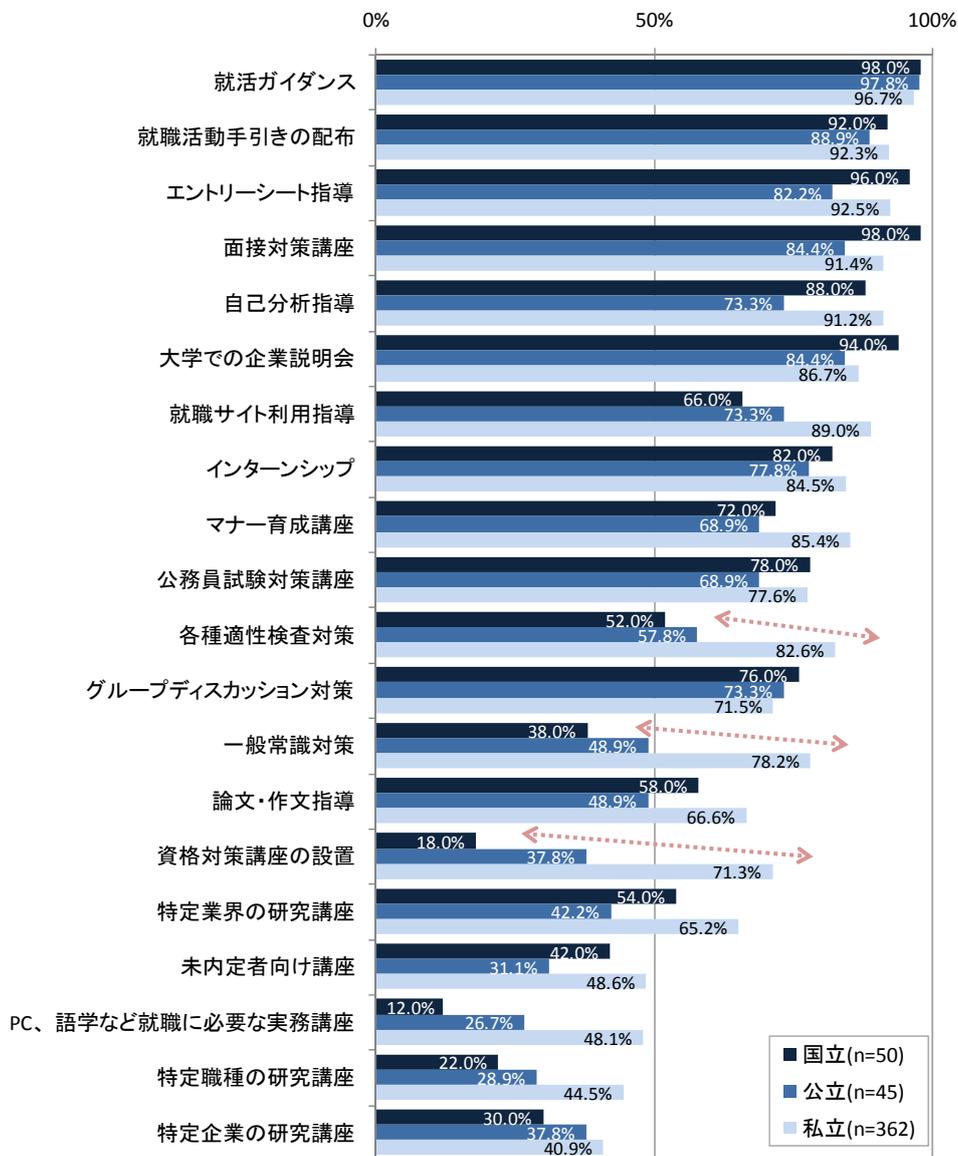


図2-1 平成21年度に実施した就職支援事業(設置者別)

次に、各就職支援の取り組み別に対象学年をみると、「未内定者向け講座」以外のすべての項目において、3年生が最も多い。「資格対策講座の設置」や「PC、語学などの就職に必要な実務講座」などの比較的取り組みに時間がかかるものは1～2年生での実施率も高い（表2-1）。

また、3年生を対象とした第1回目の就職ガイ

ダンスの時期についてたずねたところ、公立・私立では4月が多いが、国立では5～6月が多くなっている（図2-2）。

さらに、学生の第1回目のガイダンスへの参加状況をみると、公立・私立では平均で7割近い学生が参加しているが、国立では4割強となっている（表2-2）。

表2-1 就職支援の対象学年および外部協力者

(%)

就職支援の取り組み	平成21年度 実施 件数	対象学年				外部協力者			
		1年	2年	3年	4年	OB・OG	採用企業	就職支援 民間事業者	協力なし
就活ガイダンス	443	18.7	27.8	95.5	45.1	30.7	22.6	66.1	27.3
就職活動手引きの配布	420	8.8	9.0	93.6	17.6	3.1	1.2	38.8	46.7
エントリーシート指導	420	2.9	6.0	95.0	37.9	1.2	0.2	69.3	28.1
面接対策講座	418	2.6	7.7	92.6	39.2	3.8	8.1	70.8	25.4
自己分析指導	407	9.6	15.5	93.9	27.8	0.7	0.5	72.5	24.6
大学での企業説明会	399	5.5	10.8	92.5	50.1	19.0	75.2	22.3	14.5
就職サイト利用指導	388	4.6	7.2	94.1	20.6	1.0	1.8	76.8	17.0
インターンシップ	382	18.6	56.0	95.5	21.7	8.1	50.5	33.5	23.3
マナー育成講座	376	11.2	20.5	93.4	23.1	1.9	2.1	85.4	9.3
公務員試験対策講座	351	45.6	68.4	95.7	45.9	2.3	2.3	82.1	8.0
各種適性検査対策	351	18.2	27.1	92.9	16.8	0.0	0.0	84.3	8.8
グループディスカッション対策	330	3.3	8.2	95.2	28.5	3.0	3.6	70.3	26.1
一般常識対策	324	15.4	26.5	95.7	23.8	0.3	0.0	83.6	10.8
論文・作文指導	292	7.9	11.0	88.4	44.9	1.4	0.0	56.5	38.4
資格対策講座の設置	284	72.2	80.6	91.5	71.8	1.1	1.4	74.6	14.4
特定業界の研究講座	282	16.7	25.9	94.0	21.3	29.1	53.9	41.8	13.1
未内定者向け講座	211	0.0	0.0	7.1	91.5	2.8	4.3	43.6	50.2
PC、語学など就職に必要な実務講座	192	78.6	83.9	89.1	68.8	1.0	0.5	68.8	19.8
特定職種の研究講座	185	19.5	30.8	89.2	23.8	33.5	50.3	41.1	18.4
特定企業の研究講座	180	16.7	25.0	92.2	22.8	30.0	67.8	28.3	12.2

各就職支援項目につき平成21年度に「実施」と回答した大学のみ対象。複数回答。網かけは各取り組み別に最も値の高いものを示す。

Q. 平成21年度における、3年生を対象とした第1回目のガイダンスの開始月と参加率についてご記入ください。

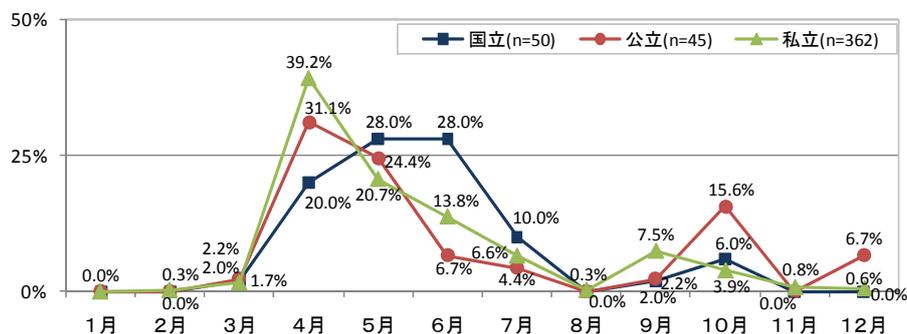


図2-2 3年生を対象とした就職ガイダンスの開始月(設置者別)

表2-2 3年生を対象とした第1回目の就職ガイダンスの参加率(設置者別)

就職ガイダンス 参加率(平均値)	国立大学 (n=44)	43 %	*無回答を除く
	公立大学 (n=40)	68 %	
	私立大学 (n=337)	69 %	

(2) 就職支援の評価と実効性の向上について

就職支援の成果を測る指標としては、「就職率」(87.3%)の回答が最も高い。次に「就職支援に対する学生の満足度アンケート」(54.7%)、「就職相談窓口への相談回数」(47.7%)と続く(図2-3)。

また、特に学生の就職状況の把握方法についてたずねたところ、「学生の自主報告」によるもの

が最も多い(92.1%)が、「学生本人へのはがき・電話等による追跡調査」も76.1%の大学で行われている(図2-4)。

就職支援の効果を高めるための取り組みとしては、「学生側のニーズ、課題に即した企画の重点化」の回答が最も多く、77.5%であった(図2-5)。

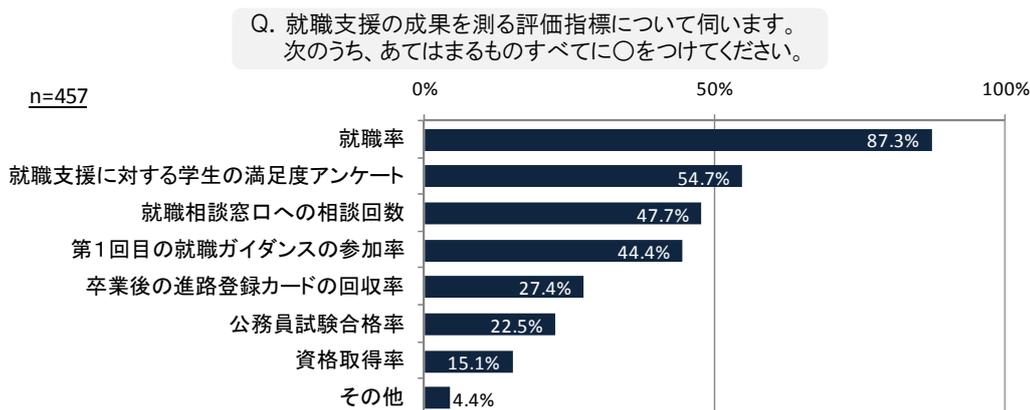


図2-3 就職支援の成果を測る指標(全体)

*複数回答

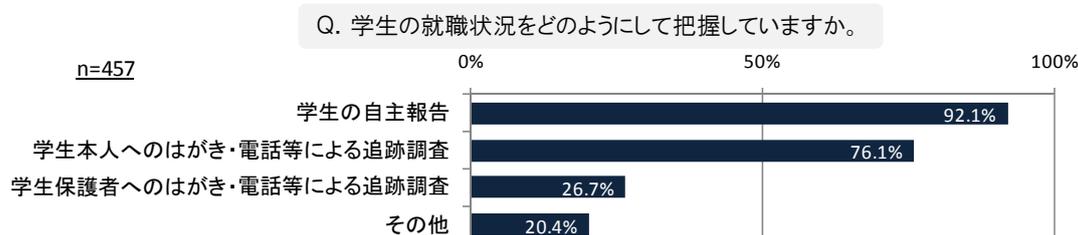


図2-4 学生の就職状況の把握方法(全体)

*複数回答

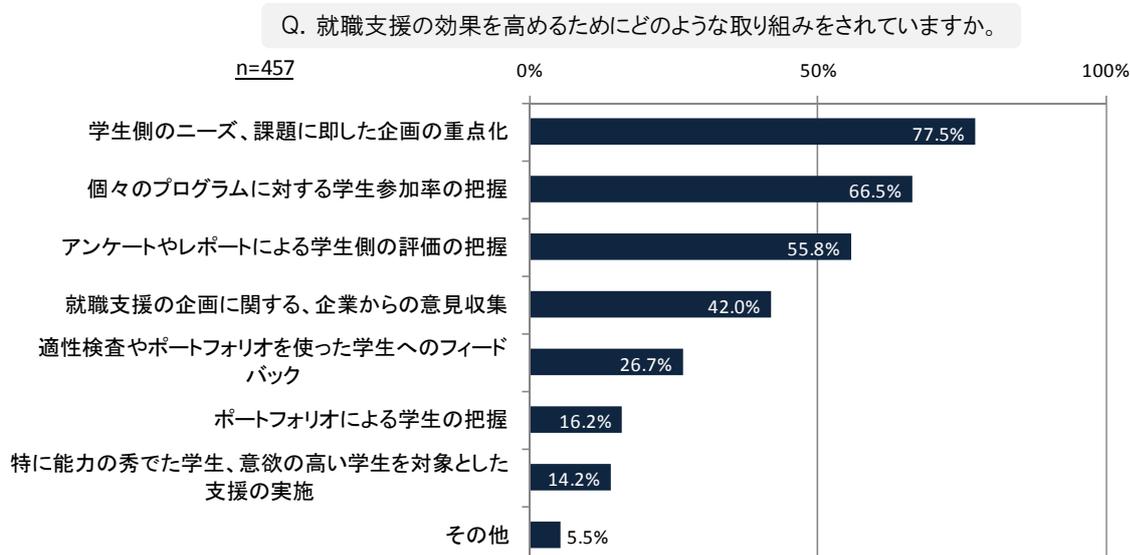


図2-5 就職支援の効果を高めるための取り組み(全体)

*複数回答

(3) 企業への働きかけの状況

大学から企業への働きかけとして、企業への情報提供と採用依頼の実施状況についてうかがった。まず、企業への情報提供については、「企業向けの冊子やパンフレットをつくっている」ところが半数程度あり、設置者別でみると私立大学が多い（53.3%）。企業訪問やホームページでの情報提供についても私立大学はいずれも4割強が実施している。一方、国立大学は「特に行っていない」との回答が44.0%と公立・私立に比べて高くなっている（図2-6）。

次に、企業に対する学生個人の紹介や直接的な採用依頼の状況を見ると、私立大学において企業への働きかけを行っている大学が7割近く存在するが、国立大学では3割程度、公立大学でも4割程度であり、私立大学が突出して多いのが分かる（図2-7）。

Q. 大学で学生が身につけた就業力について、企業等に情報提供をしていますか。

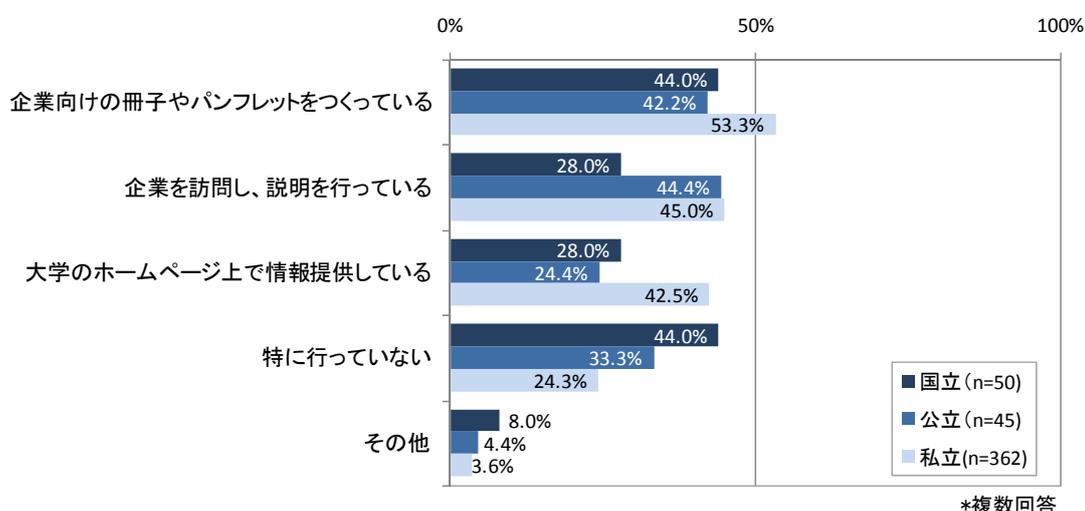


図2-6 企業に対する情報提供(設置者別)

Q. 企業に対して学生個人の紹介や直接的な採用依頼をしていますか。

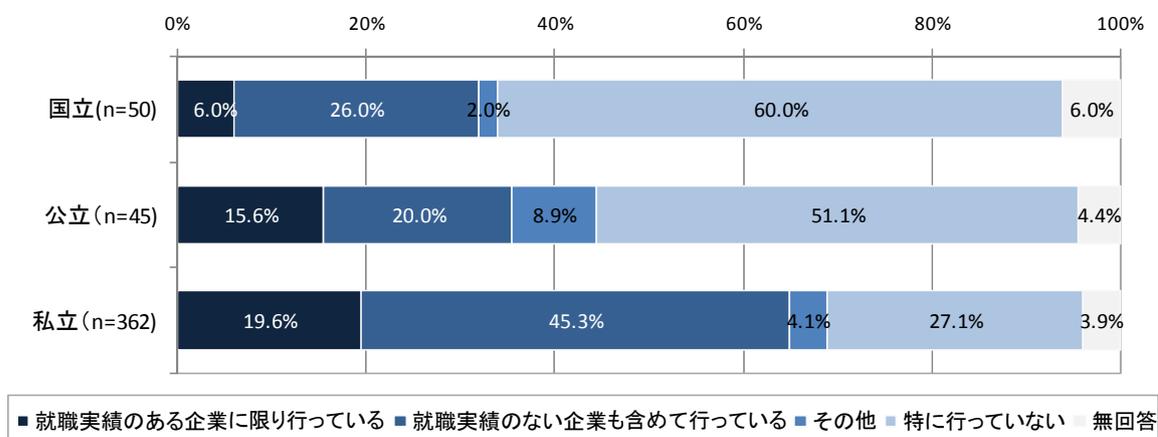


図2-7 企業に対しての学生個人の紹介や直接的な採用依頼(設置者別)

3. 進路・就職相談について

学生からの相談内容の多くは、自己分析と採用試験の対策。

(1) 進路・就職相談の実施状況

進路・就職相談の実施状況についてみると、相談専用コーナーを設置している大学は 84.2%であり、多くの大学で設置していることが分かる。

また、相談担当者については、学内の担当者のみでの実施が 73.1%、一部またはすべてを外部委託している大学が 24.3%存在する。

さらに、相談時間を決めていないかたずねたところ、1回の相談時間を決めていない大学は 33.5%しか存在しないが、その具体的な相談時間をみると、「16～30分」程度が 40.5%と最も多くなっている（いずれの割合も相談時間を決めていない大学の割合の内数）（図 3-1）。

Q. 日常的な進路・就職相談をどのように実施していますか。

n=457

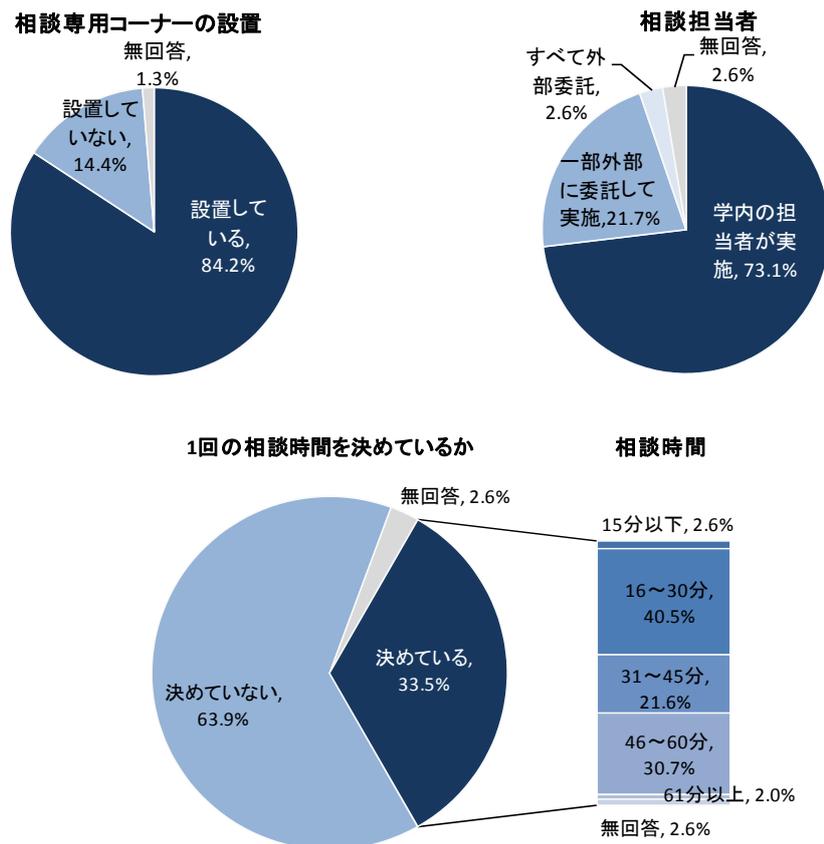


図3-1 進路・相談専用コーナーの設置状況と1回の相談時間・相談担当者(全体)

(2) 学生からの進路・就職相談内容

学生からの進路・就職相談内容をみると、「自己分析（志望動機・自己PR）について」「採用試験（面接・筆記）について」がいずれも8割以

上と同程度に多い（図3-2）。これらの項目は、3年前と比較して特に増えてきた相談内容についてたずねた結果でも上位になっている（図3-3）。

Q. 相談内容について、特に多いものを5つまで選んでください。

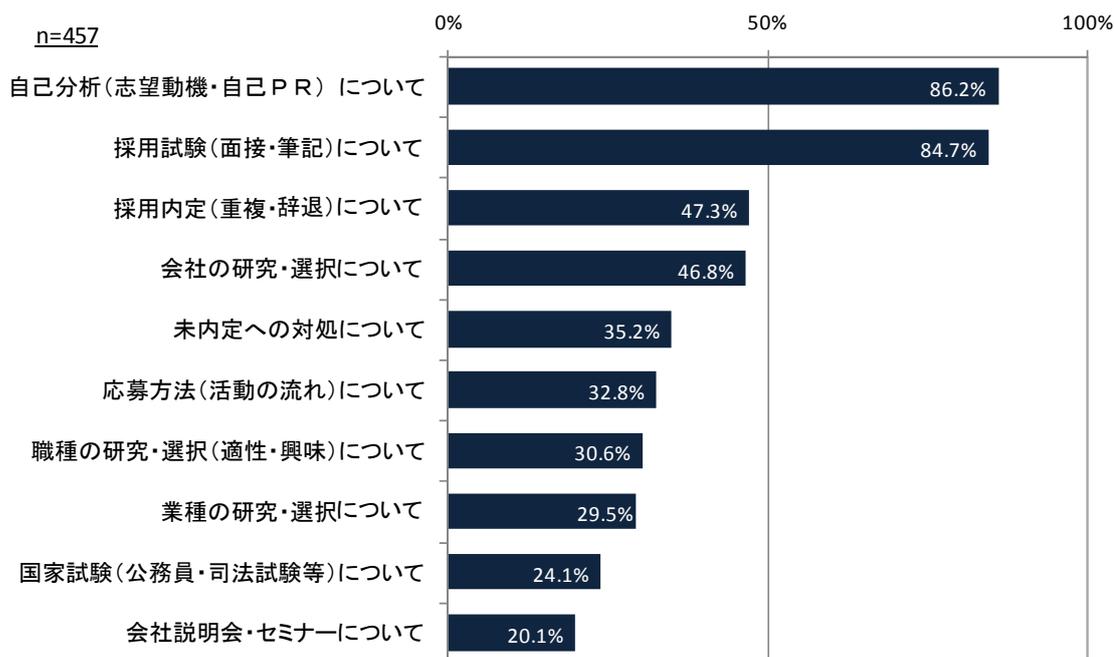


図3-2 学生からの進路・相談内容トップ10(全体)

Q. 3年前と比較して、特に増えてきた相談内容があれば3つまで選んでください。

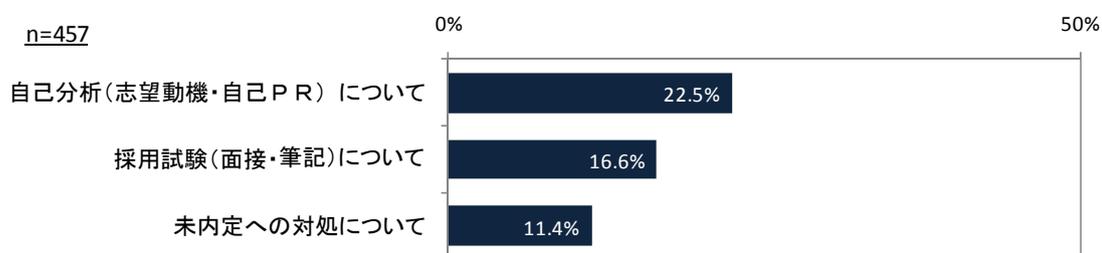


図3-3 3年前と比較して増加した学生からの進路・相談内容トップ3(全体)

4. キャリアセンターからみた学生の課題

就職に関する学生の課題は文章力や表現力。内定のとれる学生ととれない学生の二極化も多くの大学で見られている。

就職支援活動を通して学生側にみられる問題点・課題についてうかがったところ、「エントリーシートの作成に必要な文章力が不足している」という回答が「とても思う」「やや思う」の合計で82.5%、「学生の思考力や口頭での表現力が不

足し、面接指導が難しい」が70.7%と高くなっている。また「複数の内定を獲得する学生と、内定の決まらない学生が二極化している」との回答も70.3%にのぼっている（図4-1）。

Q. 貴学の就職支援活動において、学生側にみられる問題点・課題は何ですか。

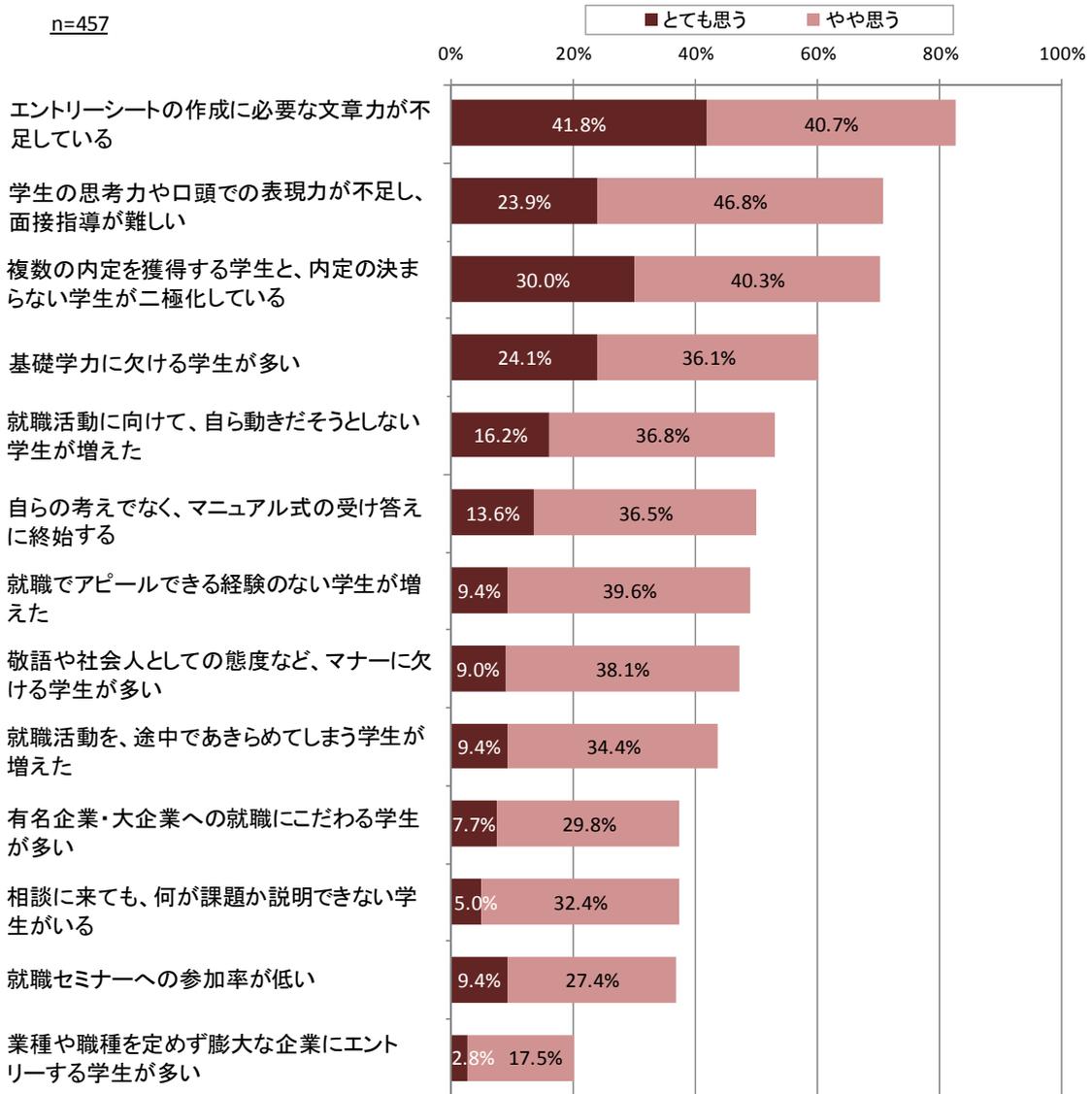


図4-1 学生側にみられる課題(全体)

次に、内定の得られる学生とそうでない学生を比べた場合の、内定の得られる学生の優れている点をうかがったところ、「自分なりの考えをまとめる力が優れている」、「文章力や口頭での表現力など、基礎的な汎用能力が優れている」という回答が多

く（「とても」+「まあ」でそれぞれ 89.5%、85.4%）、学生側にみられる問題点・課題で多かった回答の裏返しとなっており、基礎的な汎用能力がキーとなっていることが分かる（図 4-2）。

Q. 内定の得られる学生は、そうでない学生に比べてどのような面が優れているとお考えですか。

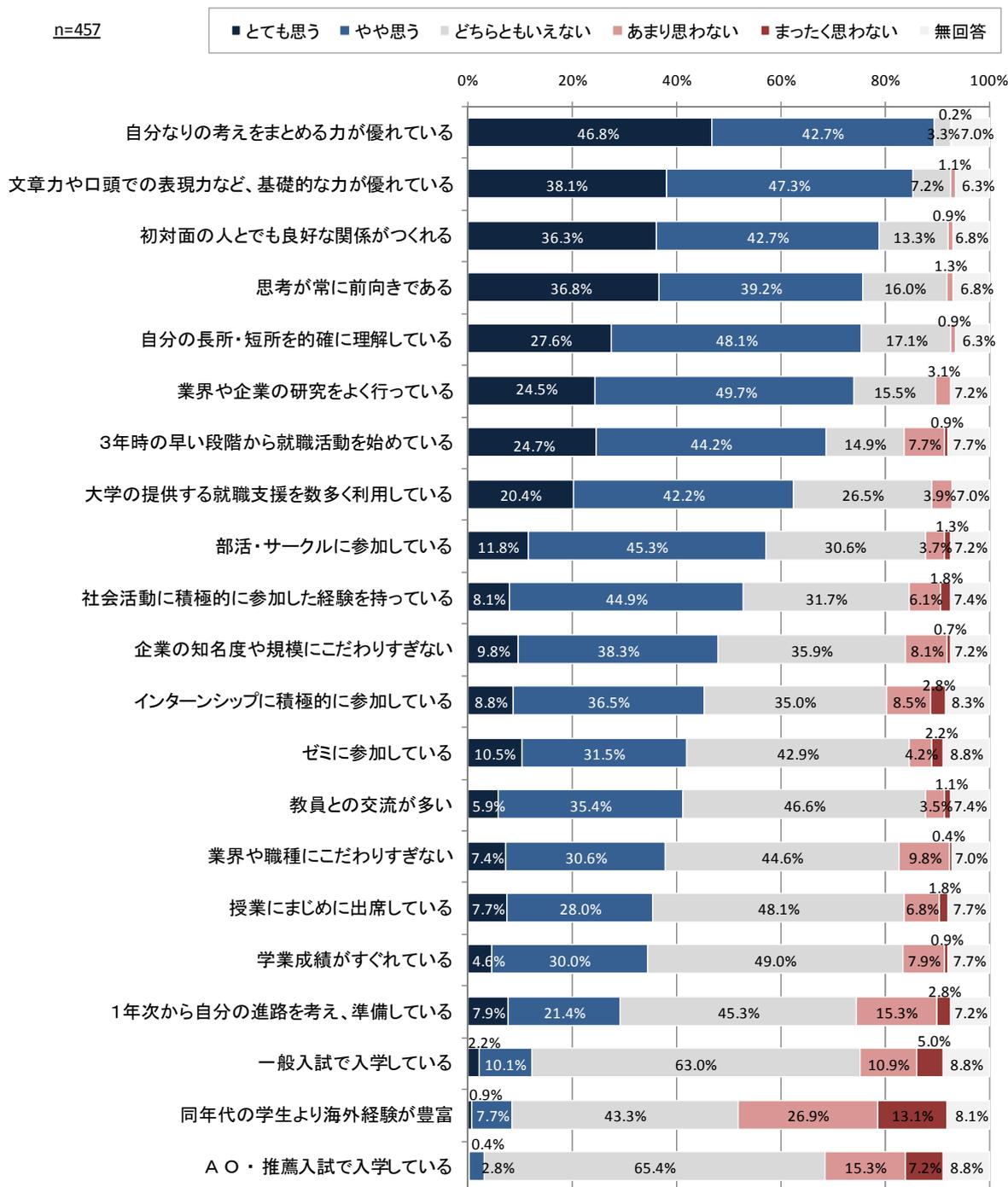


図4-2 内定の得られる学生の優れているところ(全体)

5. キャリア教育・就職支援体制

キャリア教育・就職支援の方向性について検討する全学的な委員会を7割近くの大学で設置。今後の課題はキャリアセンターと学部教員の連携強化と汎用的能力の育成。

(1) キャリア教育・就職支援の協力体制

キャリア教育・就職支援の企画・実施に際しての協力体制については、国公私問わず、「キャリア教育・就職支援の方向性について検討する、全学的な委員会が設置されている」との回答が7割近い（図5-1）。

(2) キャリア教育・就職支援の事業予算

次に、キャリア教育・就職支援関連の事業予算の今後の見通しについて見てみると、キャリア教育については「拡充の方向」が22.3%、「現状維持の方向」が44.2%となった。一方、就職支援については、「拡充の方向」が19.5%、「現状維持の方向」が53.0%で、いずれも現状維持がほぼ半数程度となっている（図5-2）。

Q. キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、大学全体としてどのような協力体制のもとで行っていますか。

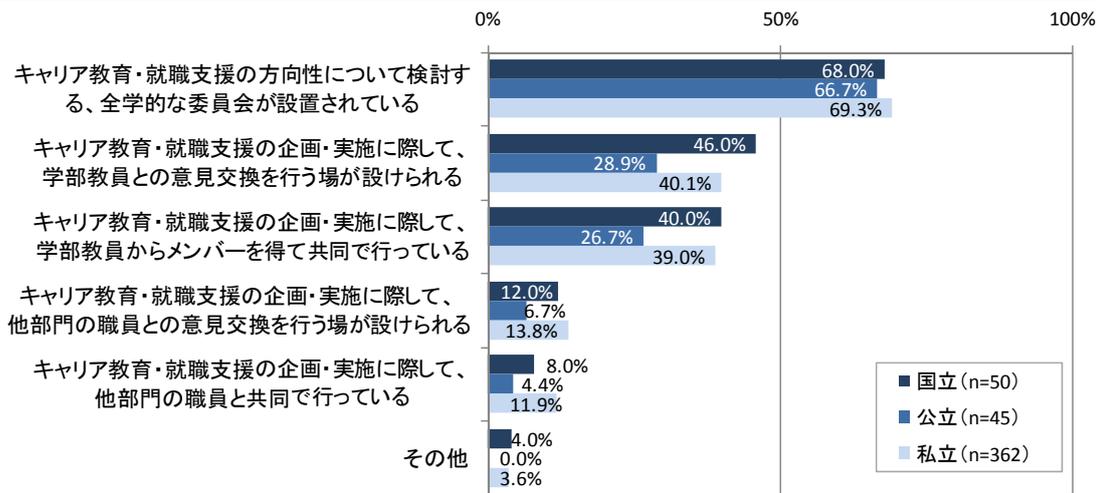


図5-1 キャリア教育・就職支援体制の状況(設置者別) *複数回答

Q. キャリア教育・就職支援関連の事業予算について、今後どのような見通しですか。

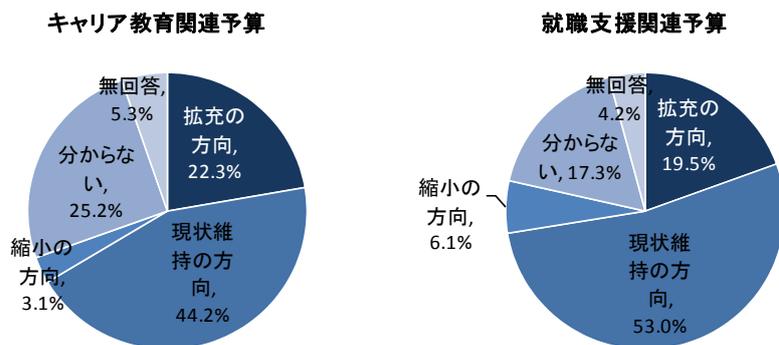


図5-2 キャリア教育・就職支援関連の事業予算の見通し(全体)

(3) 今後のキャリア教育・就職支援について

最後に、キャリア教育・就職支援に関して今後の課題についてうかがった。まず、「とても思う」の回答が高かったものが「キャリアセンターと学部教員の協力関係を深めることが重要である」(68.3%)、「就業力の基礎となる汎用的能力(思考力、表現力、討議力等の育成を通じた、課題解決力)の育成が重要である」(51.0%)であり、「とても思う」「やや思う」の合計ではいずれも9割にのぼる。前章の学生の課題にもみられるように、

基礎的な汎用能力の育成が大きな課題と認識されており、そのためにも教学側との連携は重要となるだろう。また、「キャリアセンター職員の、専門能力を高めることが重要である」「キャリア教育と就職支援の一体的な企画・運用が重要である」「低学年時からの指導の拡大が必要である」といった項目についても半数近くが「とても思う」と感じ、「やや思う」も含めると8割以上が課題と感じている(図5-3)。

Q. 今後、より効果の高いキャリア教育・職業支援を行っていくために必要な課題についてお聞きます。

n=457

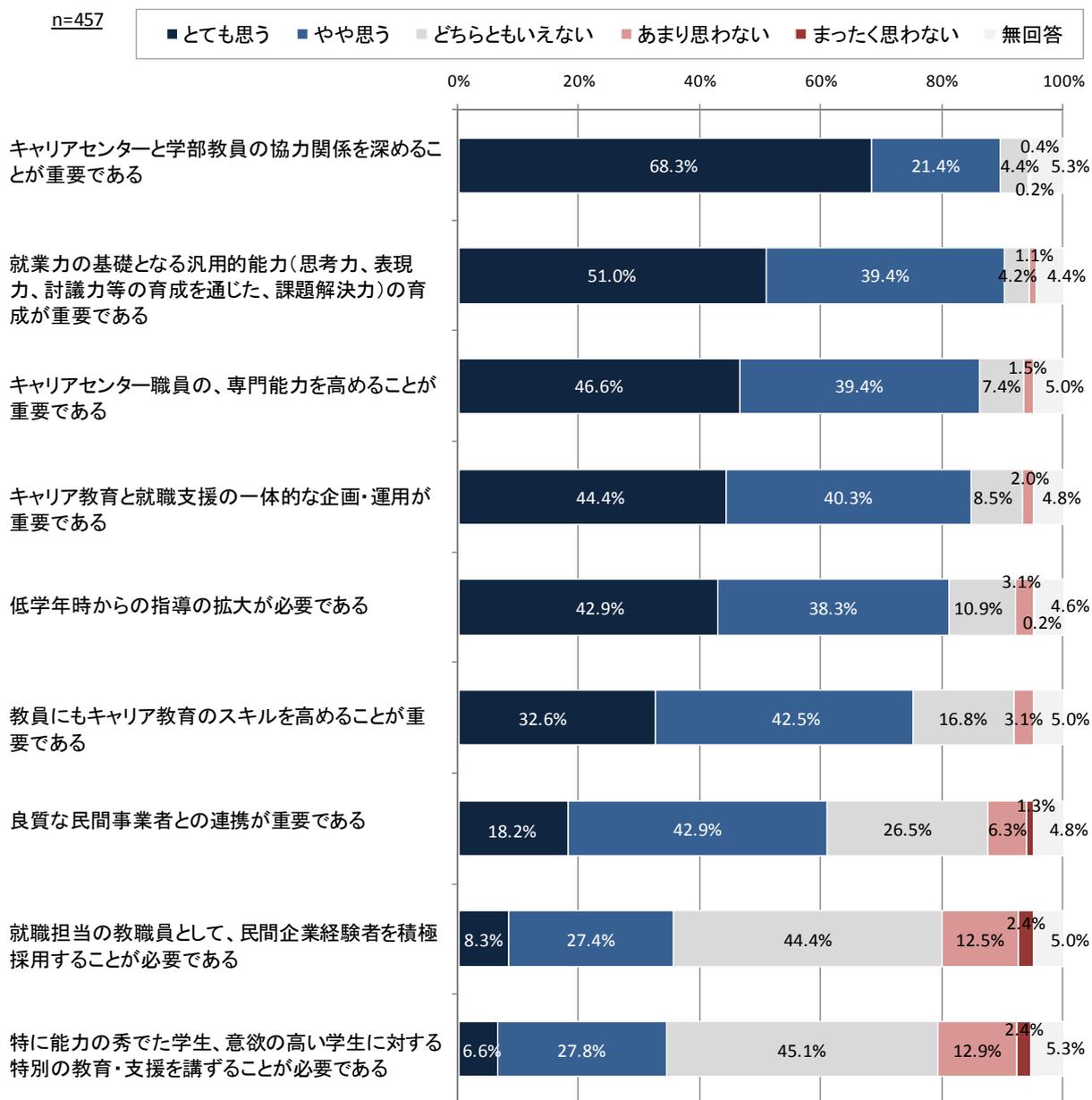


図5-3 キャリア教育・就職支援体制の課題(全体)

調査票と集計結果

次ページより、資料として、調査票上に全体集計結果を示す。

集計結果の見方は次のとおり。

- 集計結果の値・注記など元の調査票に追記した内容は、■（網かけ）で示している。
- 数値は基本的にパーセンテージを表すが、元となるサンプル数は特に表記がなければ、457件である。限定質問については別途サンプル数を「n=〇〇」として記載している。

＜ キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査 ＞

現在、国の中央教育審議会でこれからの大学のあり方について多様な議論がなされ、とりわけ大学生の就業力育成が極めて重要な課題となっています。こうした状況の下、この調査は、全国の大学のキャリア教育・就職支援活動の現状と課題を把握し、今後の大学における就職支援の改善・充実にお役にたてていただくことを目的として実施するものです（ご協力いただいた大学には、報告書をお送りします）。

ご多忙のおり大変恐縮に存じますが、調査の趣旨に何とぞご理解を賜り、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

平成22年4月 ベネッセ教育研究開発センター

－ 回答上のお願－

- 1 この調査票は、全国大学のキャリアセンター・就職部門長にお送りしています。ご回答は、キャリアセンター・就職部門長または貴大学のキャリア教育・就職支援の状況について、よくご存知の方をお願いいたします。
- 2 ご回答は、差支えない範囲で結構です。
- 3 ご記入いただいた内容はすべて統計データとして処理いたしますので、大学名やご回答者のお名前等が公表されることは決してございません。
- 4 ご記入になった調査票は、同封の専用封筒にて、**4月22日（木）**までに、ご投函くださいますよう、お願い申し上げます。（22日以降も受け付けております）
- 5 調査企画；ベネッセ教育研究開発センター

貴大学のことについて（最初にご記入ください）

a.設置形態（○は1つ）	10.9% 国立大学 9.8% 公立大学 79.2% 私立大学 0.0% その他
b.貴大学の規模 【 】内に、平成22年度の状況を記入	ア) 学部学生数 1年生【 897.7 】人 5年生【 210.3 】人 2年生【 883.4 】人 6年生【 129.3 】人 3年生【 868.0 】人 全体平均【 3663.9 】人 4年生【 969.6 】人（留年者含む） イ) 学部数【 3.1 】学部 * 値は平均値。無答を除外して算出。
c.設置学部の系統 （○はいくつでも）	47.7% 人文科学 9.2% 農水産 26.0% その他 49.2% 社会科学 21.9% 教員養成（ ） 28.4% 理工 31.7% 医歯薬・保健 * 無答 0.2%
d.貴大学の創立年 （○は1つ）	61.3% ～1979年以前 14.4% 1990～1999年 7.2% 1980～1989年 16.4% 2000年以降 * 無答 0.7%

I 貴大学におけるキャリア教育・就職支援の状況について伺います。

本調査の中では、「キャリア教育」、「就職支援」を次のように捉えています。以下の設問では、この捉え方を念頭に、ご回答をお願いいたします。

キャリア教育・・・主に低学年を対象とした、就業の基礎となる「基本的な職業観」やコミュニケーション力、課題解決力などの「汎用的能力」を育成するための教育
 就職支援・・・就職を成功させるための各種スキル習得や情報提供・相談等の支援

Q1 貴大学では、キャリア教育として、平成21年度にどのような取り組みを実施しましたか。または、今後実施する予定ですか。Q1-1) キャリアセンター主体のキャリア教育、Q1-2) 教学側(学部・学科など)主体のキャリア教育それぞれについてご回答ください。

Q1-1) キャリアセンター主体のキャリア教育

	a.実施状況 (○は1つ)			b.対象学年 (○はいくつでも)				c.外部協力者 (○はいくつでも)				
	実施している	検討中	予定または今後予定なし	1年	2年	3年	4年	O B ・ O G	採用企業	問 事 業 者	就 職 支 援 民	なし
例) 職業観育成のためのガイダンス科目(単位あり)	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	
ア) 職業観育成のためのガイダンス講座(単位なし)	72.4%	6.1%	8.1%	54.3%	61.8%	73.3%	37.3%	41.2%	34.5%	72.7%	9.7%	
	*無答 13.3%			*無答 4.2%				*無答 7.8%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=359)											
イ) 職業観育成のためのガイダンス科目(単位あり)	31.5%	10.5%	37.4%	59.4%	66.1%	59.9%	24.0%	35.9%	31.3%	53.1%	11.5%	
	*無答 20.6%			*無答 15.1%				*無答 24.0%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=192)											
ウ) 進路冊子の配布	75.1%	5.9%	8.8%	32.4%	24.1%	84.1%	20.0%	7.6%	3.8%	36.5%	32.2%	
	*無答 10.3%			*無答 6.2%				*無答 27.0%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=370)											
エ) 汎用的能力の育成を目的とした講座(単位なし)	48.8%	8.1%	22.3%	51.2%	58.1%	75.0%	31.5%	10.4%	10.4%	70.4%	8.5%	
	*無答 20.8%			*無答 9.6%				*無答 18.1%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=260)											
オ) 汎用的能力の育成を目的とした科目(単位あり)	19.7%	12.3%	43.8%	52.1%	59.6%	55.5%	22.6%	15.1%	12.3%	40.4%	13.0%	
	*無答 24.3%			*無答 21.9%				*無答 39.7%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=146)											
カ) インターンシップ(単位なし)	47.9%	5.3%	25.2%	30.0%	58.8%	86.8%	26.7%	5.3%	52.3%	28.0%	13.6%	
	*無答 21.7%			*無答 9.1%				*無答 19.8%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=243)											
キ) インターンシップ科目(単位あり)	41.4%	7.2%	33.5%	15.3%	54.1%	84.2%	20.3%	9.0%	50.0%	29.3%	12.2%	
	*無答 17.9%			*無答 10.8%				*無答 24.8%				
	↑ b・cは a「実施している」「予定または検討中」の回答者対象(n=222)											

Q1-2) 教学側(学部・学科など)主体のキャリア教育

	a.実施状況 (○は1つ)			b.対象学年 (○はいくつでも)				c.外部協力者 (○はいくつでも)					
	る 実 施 し て い	検 討 中	予 定 ま た は	今 後 予 定 な	1 年	2 年	3 年	4 年	O B ・ O G	採 用 企 業	間 事 業 者	就 職 支 援 民 な し	
例) 職業観育成のためのガイダンス科目(単位あり)	<input checked="" type="checkbox"/>				<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>			
ア) 職業観育成のためのガイダンス講座(単位なし)	21.9%	9.6%	40.3%		34.7%	46.5%	61.1%	30.6%	29.9%	22.9%	32.6%	11.1%	* 無答 28.2%
イ) 職業観育成のためのガイダンス科目(単位あり)	47.3%	9.6%	24.1%		61.9%	64.6%	48.1%	21.2%	33.1%	26.2%	36.9%	16.5%	* 無答 19.0%
ウ) 進路冊子の配布	16.6%	10.7%	46.0%		28.8%	22.4%	43.2%	17.6%	4.0%	2.4%	15.2%	28.8%	* 無答 26.7%
エ) 汎用的能力の育成を目的とした講座(単位なし)	14.2%	11.2%	45.7%		45.7%	50.0%	56.9%	31.9%	14.7%	12.9%	31.0%	17.2%	* 無答 28.9%
オ) 汎用的能力の育成を目的とした科目(単位あり)	43.1%	11.2%	24.9%		62.1%	62.5%	51.2%	27.4%	14.9%	11.7%	24.6%	32.3%	* 無答 20.8%
カ) インターンシップ(単位なし)	16.0%	6.6%	47.7%		25.2%	49.5%	70.9%	34.0%	8.7%	42.7%	19.4%	11.7%	* 無答 29.8%
キ) インターンシップ科目(単位あり)	53.4%	7.2%	21.4%		16.2%	49.5%	84.8%	24.5%	12.6%	49.5%	20.9%	15.5%	* 無答 17.9%

Q2 貴大学では、キャリア教育によらず、コミュニケーション力育成や課題解決力、論理的思考力などの汎用的能力の育成について、明示的に育成していますか。次のうちあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

8.3%	入学前教育の中で育成している(補習教育)	40.9%	専門教育科目の中で育成している
45.5%	初年次教育の中で育成している	20.1%	汎用的能力育成に特化した科目を設置している
46.2%	共通教育科目の中で育成している	6.6%	その他()
		12.7%	特に育成していない * 無答 6.1%

Q3 貴大学では、キャリア教育を展開する上で、以下のような取り組みを行っていますか。以下のア)～ク)について、それぞれ、あてまるもの1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	実施している	予定または検討中	今後予定なし	わからない
ア) キャリア教育の学習成果(身につける能力)を明示している	44.6%	26.0%	10.1%	11.8% *無答 7.4%
イ) キャリア教育の成果を評価するための指標を明示している	27.1%	35.2%	12.7%	17.5% *無答 7.4%
ウ) 就業力育成の観点からキャリア教育・職業教育科目、教養科目、専門科目を体系的に編成している	31.9%	37.6%	10.3%	13.3% *無答 6.8%
エ) キャリア形成・就職を念頭においた履修指導を行っている	39.8%	27.6%	12.0%	14.0% *無答 6.6%
オ) 専門科目においても、どのような職業能力が身につくか明示している	35.4%	23.2%	11.2%	22.3% *無答 7.9%
カ) 希望する進路を踏まえた、コース選択、ゼミ選択を促している	53.2%	12.0%	10.5%	16.6% *無答 7.7%
キ) ゼミや専門科目において、小人数の演習や討議の充実など、キャリア教育につながる取り組みを取り入れている	65.4%	11.2%	5.7%	11.6% *無答 6.1%
ク) キャリア教育科目の編成に際して、エントリーシート作成や面接など具体的な就職スキルの育成と結び付けている。	37.4%	24.5%	15.1%	14.9% *無答 8.1%

Q4 貴学のキャリア教育における、問題点・課題は何でしょうか。以下のア)～キ)について、それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても思 う	やや思 う	も い え な い	ど ち ら と も な い	あ ま り 思 わ な い	ま っ た く 思 わ な い
ア) キャリア教育の重要性について学部教員の理解が図りにくい	16.8%	38.9%	20.1%	13.1%	4.6%	
イ) キャリア教育の目標や効果が曖昧でよくわからない	5.5%	29.5%	23.4%	27.1%	7.9%	
ウ) キャリア教育の成果が就職スキルの向上に結びついていない	3.9%	16.2%	40.3%	25.8%	7.2%	
エ) 学生や保護者に、キャリア教育の意義や効果を説明しづらい	2.6%	14.7%	25.8%	38.7%	11.6%	
オ) キャリア教育を委託する民間事業者との調整が難しい	1.1%	11.8%	28.0%	37.6%	13.8%	
カ) 妥当性のあるキャリア教育科目の企画が難しい	9.6%	37.0%	25.2%	17.1%	4.8%	
キ) キャリア教育と学部の教育をどう結びつけるのが難しい	17.9%	38.5%	19.9%	12.7%	5.0%	

*無答 ア)6.3% イ)6.6% ウ)6.6% エ)6.6% オ)7.7% カ)6.3% キ)5.9%

(ここからは、貴大学で実施している就職支援について伺います)

Q5 貴大学で実施している、就職支援を目的とした年間事業について伺います。平成21年度実施した事業について、以下のa.~d.にご回答ください。

平成21年度に実施した支援項目を、すべてチェックしてください		a. 実施項目	b・c・dの対象数↓	【 a.でチェックした項目について、それぞれb~dに回答 】																
				b.経費 (○は1つ)		c.学年 (○はいくつでも)				d.外部協力者 (○はいくつでも)										
				大学負担	個人負担	1年	2年	3年	4年	O・B・O・G	採用企業	問事業業者	就職支援民	なし						
例)	論文・作文指導	<input checked="" type="checkbox"/>	⇒	1--- <input checked="" type="checkbox"/> 2	1--- <input checked="" type="checkbox"/> 2---3---4	<input checked="" type="checkbox"/> 1---2--- <input checked="" type="checkbox"/> 3---4														
	ア) 就活ガイダンス	96.9%	⇒	n=443 94.6%—0.2% *無答5.2%	18.7%—27.8%—95.5%—45.1% *無答2.3%	30.7%—22.6%—66.1%—27.3% *無答6.5%														
	イ) 就職活動手引きの配布	91.9%	⇒	n=420 95.5%—1.9% *無答2.9%	8.8%—9.0%—93.6%—17.6% *無答1.7%	3.1%—1.2%—38.8%—46.7% *無答14.8%														
	ウ) 就職サイト利用指導	84.9%	⇒	n=388 90.5%—1.3% *無答8.2%	4.6%—7.2%—94.1%—20.6% *無答3.1%	1.0%—1.8%—76.8%—17.0% *無答9.3%														
	エ) 特定業界の研究講座	61.7%	⇒	n=282 92.2%—1.8% *無答6.0%	16.7%—25.9%—94.0%—21.3% *無答2.5%	29.1%—53.9%—41.8%—13.1% *無答7.1%														
	オ) 特定職種の研究講座	40.5%	⇒	n=185 90.3%—2.7% *無答7.6%	19.5%—30.8%—89.2%—23.8% *無答5.4%	33.5%—50.3%—41.1%—18.4% *無答7.6%														
	カ) 特定企業の研究講座	39.4%	⇒	n=180 93.3%—1.1% *無答5.6%	16.7%—25.0%—92.2%—22.8% *無答5.0%	30.0%—67.8%—28.3%—12.2% *無答6.7%														
	キ) 自己分析指導	89.1%	⇒	n=407 90.7%—4.9% *無答5.7%	9.6%—15.5%—93.9%—27.8% *無答2.2%	0.7%—0.5%—72.5%—24.6% *無答7.9%														
	ク) エントリーシート指導	91.9%	⇒	n=420 88.3%—7.4% *無答5.7%	2.9%—6.0%—95.0%—37.9% *無答1.4%	1.2%—0.2%—69.3%—28.1% *無答8.8%														
	ケ) 論文・作文指導	63.9%	⇒	n=292 83.2%—11.3% *無答6.8%	7.9%—11.0%—88.4%—44.9% *無答3.4%	1.4%—0.0%—56.5%—38.4% *無答9.9%														
	コ) 面接対策講座	91.5%	⇒	n=418 91.1%—6.2% *無答4.5%	2.6%—7.7%—92.6%—39.2% *無答1.9%	3.8%—8.1%—70.8%—25.4% *無答7.7%														
	サ) グループディスカッション対策	72.2%	⇒	n=330 89.4%—6.7% *無答5.5%	3.3%—8.2%—95.2%—28.5% *無答2.4%	3.0%—3.6%—70.3%—26.1% *無答6.7%														
	シ) マナー育成講座	82.3%	⇒	n=376 93.4%—2.9% *無答3.7%	11.2%—20.5%—93.4%—23.1% *無答2.4%	1.9%—2.1%—85.4%—9.3% *無答8.0%														
	ス) インターンシップ	83.6%	⇒	n=382 78.5%—14.9% *無答7.6%	18.6%—56.0%—95.5%—21.7% *無答2.4%	8.1%—50.5%—33.5%—23.3% *無答11.5%														
	セ) 大学での企業説明会	87.3%	⇒	n=399 95.2%—0.3% *無答4.5%	5.5%—10.8%—92.5%—50.1% *無答2.0%	19.0%—75.2%—22.3%—14.5% *無答5.5%														
	ソ) 各種適性検査対策	76.8%	⇒	n=351 67.8%—30.8% *無答5.1%	18.2%—27.1%—92.9%—16.8% *無答3.1%	0.0%—0.0%—84.3%—8.8% *無答8.5%														
	タ) 一般常識対策	70.9%	⇒	n=324 65.4%—33.3% *無答4.0%	15.4%—26.5%—95.7%—23.8% *無答2.5%	0.3%—0.0%—83.6%—10.8% *無答8.3%														
	チ) 公務員試験対策講座	76.8%	⇒	n=351 37.9%—61.0% *無答5.1%	45.6%—68.4%—95.7%—45.9% *無答3.1%	2.3%—2.3%—82.1%—8.0% *無答9.1%														
	ツ) 資格対策講座の設置	62.1%	⇒	n=284 35.6%—65.5% *無答3.5%	72.2%—80.6%—91.5%—71.8% *無答4.9%	1.1%—1.4%—74.6%—14.4% *無答13.0%														
	テ) PC、語学など就職に必要な実務講座	42.0%	⇒	n=192 36.5%—63.5% *無答3.6%	78.6%—83.9%—89.1%—68.8% *無答6.3%	1.0%—0.5%—68.8%—19.8% *無答12.5%														
	ト) 未内定者向け講座	46.2%	⇒	n=211 91.5%—0.5% *無答8.1%	0.0%—0.0%—7.1%—91.5% *無答3.8%	2.8%—4.3%—43.6%—50.2% *無答9.5%														
		*無答	⇒	1.5%																

SQ) Q5のaで回答された就職支援の実施項目の他に、貴大学で実施している特徴的な支援があれば、以下に名称と概要をご記入ください。

名称 ()

Q6 就職支援の成果を測る評価指標について、伺います。次のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

44.4%	第1回目の就職ガイダンスの参加率	
54.7%	就職支援に対する学生の満足度アンケート	
87.3%	就職率	
15.1%	資格取得率	
22.5%	公務員試験合格率	
47.7%	就職相談窓口への相談回数	
27.4%	卒業後の進路登録カードの回収率	
4.4%	その他 ()	* 無答 4.2%

Q7 平成21年度における、3年生を対象とした、第1回目の就職ガイダンスの開始月と参加率について、下欄にご記入ください。

平成21年度、3年生対象の就職ガイダンスについて

第1回開始月	<input type="text"/>	月	4月	36.3%
			5月	21.9%
学生の参加率	<input type="text"/>	割程度	8割	20.6%
			9割	16.2%
			平均	6.6割

* 回答の多い上位2つの月と参加率のみ表示
* 平均値は無答を除外して算出

Q8 貴大学では、就職支援の効果を高めるために、どのような取り組みをされていますか。次のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

77.5%	学生側のニーズ、課題に即した、企画の重点化	
42.0%	就職支援の企画に関する、企業からの意見収集	
14.2%	特に能力の秀でた学生、意欲の高い学生を対象とした支援の実施	
16.2%	ポートフォリオによる学生の把握	
66.5%	個々のプログラムに対する学生参加率の把握	
55.8%	アンケートやレポートによる学生側の評価の把握	
26.7%	適性検査やポートフォリオを使った学生へのフィードバック	
5.5%	その他 ()	* 無答 3.5%

Q9 貴大学では、大学で学生が身につけた就業力について、企業等に情報提供をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

39.2%	大学のホームページ上で情報提供している	
51.2%	企業向けの冊子やパンフレットをつくっている	
43.1%	企業を訪問し、説明を行っている	
4.2%	その他 ()	
27.4%	特に行っていない	* 無答 2.2%

Q10 貴大学では、大学で学生が身につけた就業力について、高校生や保護者に情報提供をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

46.6%	大学のホームページ上で情報提供している	
41.8%	高校生や保護者向けの冊子やパンフレットをつくっている	
46.4%	高校生や保護者向けの説明会を実施している	
14.9%	高校生や保護者向けの相談窓口を設けている	
8.1%	その他 ()	
23.6%	特に行っていない	* 無答 3.5%

Q11 貴大学では、企業に対して学生個人の紹介や直接的な採用依頼をしていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(○は1つだけ)

17.7%	就職実績のある企業に限り、行っている	
40.7%	就職実績のない企業も含めて、行っている	
4.4%	その他 ()	
33.0%	特に行っていない	* 無答 4.2%

Q12 貴大学では、日常的な進路・就職相談をどのように実施していますか。次の、ア)～ウ)にご回答ください。

ア) 相談専用コーナーの設置 (○は1つ)	84.2% している 14.4% していない * 無答 1.3%
イ) 1回の相談時間(○は1つ) (いずれか1つに○をつけ、「1」のときは、相談時間にも回答。)	33.5% 決めている ⇒ 【SQ 相談時間; 41.7分】 63.9% 決めていない * 無答 2.6% * 平均値。値は無答を除外して算出
ウ) 相談担当者 (○は1つ)	73.1% 学内の担当者が実施 21.7% 一部外部に委託して実施 2.6% すべて外部委託 * 無答 2.6%

Q13 学生から寄せられる、進路・就職相談の状況について伺います。次の、ア)～エ)にご回答ください。

ア) 相談内容について、特に多いものを5つまで選んで、あてはまるものに○をつけてください。
(○は5つまで)

86.2%	自己分析(志望動機・自己PR)について
3.5%	資料請求の方法について
29.5%	業種の研究・選択について
30.6%	職種の研究・選択(適性・興味)について
46.8%	会社の研究・選択について
15.8%	OB・OG訪問について
32.8%	応募方法(活動の流れ)について
20.1%	会社説明会・セミナーについて
84.7%	採用試験(面接・筆記)について
47.3%	採用内定(重複・辞退)について
35.2%	未内定への対処について
1.8%	成績について
1.1%	健康について
2.4%	留年について
8.3%	進学(大学院・留学)について
4.4%	Uターンについて
24.1%	国家試験(公務員・司法試験等)について
2.2%	教育実習について
6.1%	既卒者からの相談
5.3%	その他()
	* 無答 2.0%

イ) 上記Q13でお答頂いた5つの相談内容を含めた1～20の全ての相談の中で、3年前と比較して、特に増えてきた相談内容があれば、以下に、Q13の選択肢を3つまで選んで番号を記入し、具体的な内容をご記入ください。

Q13の選択肢番号	具体的な相談内容
1位 22.5%	1. 自己分析(志望動機・自己PR)について
2位 16.6%	9. 採用試験(面接・筆記)について
3位 11.4%	11. 未内定への対処について
4位 6.1%	10. 採用内定(重複・辞退)について
5位 4.6%	5. 会社の研究・選択について
	* 6位以下は少数のため省略

ウ) その他、平成21年度の相談実績について、以下にご記入ください。明らかでない場合は(不明)に○をつけてください。

● 平成21年度の相談回数	【	】回	(不明 56.9%)
● 平成21年度の利用学生数(実数)	【	不明が多いため省略	】人 (不明 67.2%)
● 1回あたりの平均相談時間	【	】分	(不明 44.6%)

Q14 貴学の就職支援活動において、学生側にみられる問題点・課題は何ですか。以下のア)～ス)について、それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても思う	やや思う	えない どちらともい	い あまり思わな	ない まったく思わ	無答 ↓↓↓↓↓
ア) エントリーシートの作成に必要な文章力が不足している	41.8%	40.7%	9.4%	3.9%	0.4%	3.7%
イ) 学生の思考力や口頭での表現力が不足し、面接指導が難しい	23.9%	46.8%	17.3%	8.1%	0.2%	3.7%
ウ) 自らの考えでなく、マニュアル式の受け答えに終始する	13.6%	36.5%	29.5%	15.5%	0.7%	4.2%
エ) 基礎学力に欠ける学生が多い	24.1%	36.1%	19.3%	14.4%	2.6%	3.5%
オ) 敬語や社会人としての態度など、マナーに欠ける学生が多い	9.0%	38.1%	27.6%	19.7%	1.8%	3.9%
カ) 就職活動に向けて、自ら動きだそうとしない学生が増えた	16.2%	36.8%	27.8%	13.6%	1.8%	3.9%
キ) 相談に来て、何が課題か説明できない学生がいる	5.0%	32.4%	30.6%	24.3%	3.5%	4.2%
ク) 就職でアピールできる経験のない学生が増えた	9.4%	39.6%	29.5%	14.7%	2.4%	4.4%
ケ) 就職セミナーへの参加率が低い	9.4%	27.4%	23.6%	30.0%	5.7%	3.9%
コ) 就職活動を、途中であきらめてしまう学生が増えた	9.4%	34.4%	28.9%	20.4%	2.6%	4.4%
サ) 有名企業・大企業への就職にこだわる学生が多い	7.7%	29.8%	29.8%	24.7%	3.7%	4.4%
シ) 業種や職種を定めず膨大な企業にエントリーする学生が多い	2.8%	17.5%	31.1%	37.6%	6.6%	4.4%
ス) 複数の内定を獲得する学生と、内定の決まらない学生が二極化している	30.0%	40.3%	15.8%	8.1%	1.5%	4.4%

Q15 内定の得られる学生は、そうでない学生に比べて、どのような面が優れているとお考えですか。
 以下のア)～ナ)について、それぞれあてまるもの1つに○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

	とても 思う	やや 思う	え ない ど ち ら と も い	い あ ま り 思 わ な い	ま っ た く 思 わ な い	無 答 ↓ ↓ ↓ ↓
ア) 文章力や口頭での表現力など、基礎的な力が優れている	38.1%	47.3%	7.2%	1.1%	0.0%	6.3%
イ) 自分なりの考えをまとめる力が優れている	46.8%	42.7%	3.3%	0.2%	0.0%	7.0%
ウ) 初対面の人とでも良好な関係がつけれる	36.3%	42.7%	13.3%	0.9%	0.0%	6.8%
エ) 思考が常に前向きである	36.8%	39.2%	16.0%	1.3%	0.0%	6.8%
オ) 1年次から自分の進路を考え、準備している	7.9%	21.4%	45.3%	15.3%	2.8%	7.2%
カ) 3年時の早い段階から就職活動を始めている	24.7%	44.2%	14.9%	7.7%	0.9%	7.7%
キ) 業界や企業の研究をよく行っている	24.5%	49.7%	15.5%	3.1%	0.0%	7.2%
ク) 自分の長所・短所を的確に理解している	27.6%	48.1%	17.1%	0.9%	0.0%	6.3%
ケ) 大学の提供する就職支援を数多く利用している	20.4%	42.2%	26.5%	3.9%	0.0%	7.0%
コ) 業界や職種にこだわりすぎない	7.4%	30.6%	44.6%	9.8%	0.4%	7.0%
サ) 企業の知名度や規模にこだわりすぎない	9.8%	38.3%	35.9%	8.1%	0.7%	7.2%
シ) 一般入試で入学している	2.2%	10.1%	63.0%	10.9%	5.0%	8.8%
ス) AO・推薦入試で入学している	0.4%	2.8%	65.4%	15.3%	7.2%	8.8%
セ) 授業にまじめに出席している	7.7%	28.0%	48.1%	6.8%	1.8%	7.7%
ソ) ゼミに参加している	10.5%	31.5%	42.9%	4.2%	2.2%	8.8%
タ) 学業成績がすぐれている	4.6%	30.0%	49.0%	7.9%	0.9%	7.7%
チ) 教員との交流が多い	5.9%	35.4%	46.6%	3.5%	1.1%	7.4%
ツ) 部活・サークルに参加している	11.8%	45.3%	30.6%	3.7%	1.3%	7.2%
テ) インターンシップに積極的に参加している	8.8%	36.5%	35.0%	8.5%	2.8%	8.3%
ト) 社会活動に積極的に参加した経験を持っている	8.1%	44.9%	31.7%	6.1%	1.8%	7.4%
ナ) 同年代の学生より海外経験が豊富	0.9%	7.7%	43.3%	26.9%	13.1%	8.1%

SQ 学生に見られる問題点・課題や、内定を得られる学生と得られない学生の違いについて、ご意見があれば自由にご記入ください。

Ⅱ 貴大学におけるキャリア教育支援・就職支援の体制について伺います。

Q16 貴部門の体制について、以下の表にご記入ください（部門長を除く、実務を担当される教職員の数をご記入ください）。

	専任事務職員	外部スタッフ (派遣等)	教員	
			専任	兼務
総数	5.0 人 * 平均値。値は無答を除外して算出	— 人	— 人	— 人
うち、カウンセラー 資格保有者	— 人	— 人	— 人	— 人

*「専任事務職員の総数」以外は無答が多いため省略

Q17 貴大学では、キャリア教育、就職支援の企画・実施に際して、大学全体として、どのような協力体制のもとで行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

68.9%	キャリア教育・就職支援の方向性について検討する、全学的な委員会が設置されている
39.6%	キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、学部教員との意見交換を行う場が設けられる
37.9%	キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、学部教員からメンバーを得て共同で行っている
12.9%	キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、他部門の職員との意見交換を行う場が設けられる
10.7%	キャリア教育・就職支援の企画・実施に際して、他部門の職員と共同で行っている
3.3%	その他（ ） * 無答 6.1%

Q18 貴大学では、キャリア教育・就職支援関連の事業予算について、今後どのような見通しですか。次のア)、イ) にそれぞれご回答ください。（○はそれぞれ1つずつ）

	拡充の方向	現状維持の方向	縮小の方向	分からない
ア) キャリア教育関連予算	22.3%	44.2%	3.1%	25.2%
イ) 就職支援関連予算	19.5%	53.0%	6.1%	17.3%

* 無答 ア)5.3% イ)4.2%

Q19 キャリア教育・就職支援の事業規模（予算額）について、差支えなければ、下記表にご回答ください。

	H21 年度事業	平成 22 年度事業予算
事業総額	— 万円	— 万円
内、外部委託費用	— 万円	— 万円

* 無答が多いため省略

Q20 学生の就職状況の把握方法についてご教示ください。

ア) 学生の就職状況をどのようにして把握していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

92.1%	学生の自主報告	
76.1%	学生本人へのはがき・電話等による追跡調査	
26.7%	学生保護者へのはがき・電話等による追跡調査	
20.4%	その他()	* 無答 2.2%

SQ 学生の就職状況の把握について、特に工夫されていることがあれば、ご自由にお書きください。

Q21 平成21年度の学部卒業者の状況について、ア)、イ)、ウ)にご回答ください。

ア) 平成21年度の学部卒業者数(留年者含む総数) ⇒ 【 - 】人

* 無答が多いため省略

イ) 平成21年度学部卒業者の進路別割合

平成22年3月31日現在の状況について、差支えなければご回答ください。

全体が100%になるように、数値を割り振ってください

正社員・職員についた学生	-	%
一次的な職についた学生	-	%
進学・留学	-	%
留年	-	%
無職・その他	-	%
不明	-	%
合計	1 0 0	%

* 無答が多いため省略

ウ) 貴大学では平成21年度、単位取得済みの卒業予定者を対象に、就職活動のための自主的な留年制度を実施しましたか。または今後予定していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

(○は1つだけ)

5.3%	実施した	3.3%	実施予定または検討中	86.0%	実施予定はない	* 無答 5.5%
------	------	------	------------	-------	---------	-----------

↓
n=00

SQ) 前問う)で1、2に○をつけた方は、以下の①、②についてそれぞれ、1つに○をつけてください。

- ① 自主的に留年した場合の単位取得の義務 (30.8% あり 53.8% なし) * 無答 15.4%
- ② 自主的に留年した場合の学費納入 (79.5% あり 5.1% なし) * 無答 15.4%

Q22 最後に、貴大学において、今後、より効果の高い、キャリア教育・職業支援を行っていくために、必要な課題についてお聞きします。以下のア)～ケ)について、それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても思う	やや思う	いえない どちらとも	ない あまり思わ	まった くない 思	無答 ↓ ↓ ↓
ア) キャリアセンターと学部教員の協力関係を深めることが重要である	68.3%	21.4%	4.4%	0.2%	0.4%	5.3%
イ) キャリアセンター職員の、専門能力を高めることが重要である	46.6%	39.4%	7.4%	1.5%	0.0%	5.0%
ウ) 教員にもキャリア教育のスキルを高めることが重要である	32.6%	42.5%	16.8%	3.1%	0.0%	5.0%
エ) 良質な民間事業者との連携が重要である	18.2%	42.9%	26.5%	6.3%	1.3%	4.8%
オ) 就職担当の教職員として、民間企業経験者を積極採用することが必要である	8.3%	27.4%	44.4%	12.5%	2.4%	5.0%
カ) 低学年時からの指導の拡大が必要である	42.9%	38.3%	10.9%	3.1%	0.2%	4.6%
キ) キャリア教育と就職支援の一体的な企画・運用が重要である	44.4%	40.3%	8.5%	2.0%	0.0%	4.8%
ク) 特に能力の秀でた学生、意欲の高い学生に対する特別の教育・支援を講ずることが必要である。	6.6%	27.8%	45.1%	12.9%	2.4%	5.3%
ケ) 就業力の基礎となる汎用的能力(思考力、表現力、討議力等の育成を通じた、課題解決力)の育成が重要である	51.0%	39.4%	4.2%	1.1%	0.0%	4.4%

SQ 上記についてのご意見を、自由にご記入ください。

■ ご回答者の役職、ご連絡先等をご記入ください。

大学・部門	大学名	部門名
ご回答者の役職 (1つに○)	35.2% キャリアセンター・就職部門長 59.5% 1以外(具体的に)	*無答 5.3%
大学での職種 (1つに○)	93.0% 事務職員 5.5% 教員	*無答 1.5%
連絡先電話番号		

お忙しいところ、誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒(切手不要)にて、ご投函くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ

〒163-1422 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー22階
Benesse 教育研究開発センター 「キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査」係
TEL :03-5371-1244 受付時間 10:00~17:00(土日、祝日を除く)

「キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査」
発行日:2010年7月20日 発行人:新井 健一 編集人:原 茂
発行所:㈱ベネッセコーポレーション Benesse 教育研究開発センター